

- ・追加・変更箇所は赤文字で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/08/20  
改訂 2025/01/14-2

## 【Cruising Down the River】変更と注意事項

### <曲を通じて>

#### 【演奏方針】

- ・曲想を聴衆に伝えるには、演奏前の意識の切り替えが特に重要。曲想・歌詞・リズムを意識して、1 回目の歌いだしの前にパッと切り替えて歌えることが重要（本番演奏時を意識）。
- ・こうしたゆったりとした流れるような楽曲では、自パートに専念するだけでなく全パートの構成に責任を持つぐらいの意識を持って歌う。
- ・意外に速いテンポ、3/4 というよりも 6/8 に近いノリで。テンポを当初よりすこし早めることとする。そうすることで、セーヌ川を小粋におしゃれ川下りしている感じが出せる（変更前のテンポは、大自然の緩やかな河をのんびり川下りしている感じだった）。
- ・この曲の指揮の振り方は、3/4 拍子の原則だと「1 2 3」の3つ振り。ただそれだとカクカクしてしまい優雅に川下りをするイメージを創れない。1 小節（ワッツスリー）を1振りとした方が滑らかに奏でられると考えている。指揮の振り方に原理原則はあるが、常に杓子定規に従うということでもない。曲想に一番合う振り方にする、これが音楽を創るということ。
- ・一瞬のおいしい音（音符）の音程と長さを正確にキープすることが重要。
- ・B1B2 の低音域は曲の支えとなる。合唱では低音域にいく程厚くしたいので、つねに f で響かせるつもりでバリバリ鳴らす。ただし押したり突いたりしない。

#### 【曲想】

- ・臨時記号（# ♭）の音符は難しいがおしゃれな構成。正確に響かせるように。
- ・楽譜では転調していないが、実は途中で調が変わっている。そこでは音楽の色を変えて演奏する。  
最初～ 小粋におしゃれに滑らかに川下りしている  
42～49 小節 小鳥たちが皆で愛の歌を歌い（すこし軽やかな跳ねるような感じ）  
50～57 小節 そよ風がやさしく伴奏するように吹き抜けていく（HmHm の気分をそろえて）  
58 小節～（57 小節の T2 のメロディを経由して、） もとの川下りの感じにもどる。
- ・歌詞の内容も踏まえると、縦に気取った感じが似合う。小粋に気障っぽくシャレオツに優雅に。とにかくきれいに大人っぽく、男の色気を醸し出して。

- ・しっかりくつきり（ハキハキ）というより、ちょっとクネクネした感じで、大げさなくらいハイソに気障っぽく、小指立てて「アフタヌーンティー」をたしなむイメージで。ただし「ワンツツスリー」のリズムはなくしてはダメ。ここが壊れると、「ニユルニユル」になってしまい、おしゃれ感がなくなる。
- ・歌い方はあくまで縦に、しゃべりとは異なる。例えば Down など、しゃべりは横だが歌では縦に。

### <個別事項>

- ・B2 14 小節他 低音域を響かせるために、Uh は「o」に近い「U」で歌う。メリハリをつけるため、前の音を犠牲にして（一瞬切って）もよいくらい。
- ・T1T2B1 14,30,38,62 小節の休符は 4 分休符(14 小節など)と 2 分休符(30 小節など)の 2 通りあるので、それを意識してオンビートで決めないと、B2 の効果音が生きてこない。  
特に、38 小節の 4 分休符の入りは、直前の 30 小節（2 分休符）の影響で遅れがち。  
前の小節の最終拍は、ダラーと延ばさずピシッと切る。休符後の拍はオンビートで入る。  
休符は休みではなく、B2 を聴くという「無音」を歌うつもりで。この無音がおしゃれ。
- ・T1T2 22 小節他 他のパートの音が動いているところは、同じ長さだけきちんと延ばす。
- ・T2B1 全般 外声（T1B2）で曲の構成をイメージして、その真ん中を埋めていくというイメージ。
- ・B1 43 小節～ 難しい音程なので、メロディに 1 音下をぶつけるつもりで。  
43 小節の 1 拍目の「b G」は意外に低い感じになるので、正確に。
- ・T2 42～50 小節 メロディ担当なので、しっかりと聴かせる。  
そして、50 小節で T1 にメロディのバトンをそっと渡す感じにつなぐ。  
51～56 小節 同じ音なので、ふらついたり探り探りしたりしないように安定して。
- ・B1B2 51～56 小節 Hm Hm は、音量を出すため口は少し開いてもよいが、母音は出さない。
- ・T2B1B2 53-57 小節 曲想を変えるようしっかりと刻む。
- ・T2 57 小節の音程の動きがすごく重要。正しくきれいな響きで。しっかりとした音量で主張して。
- ・B1B2 70 小節「F」を全開で響かせることで 71 小節からのエンディングにつながっていく
- ・T2 70 小節「b A」は難しいがおしゃれなので、正確に出せるよう体にしみこませて。「b A」は合格圏内に到達。もう少し高目が取れば、「ゾクッ」とする和音が完成する。単独だと難しいが、B1 の「F」との響きを感じれば取りやすくなる。
- ・T2 71 小節 T2 「b A」は前の小節と同じ音だが難しい。  
次の小節で「b A」ともとに戻るのがさらに難しい。